

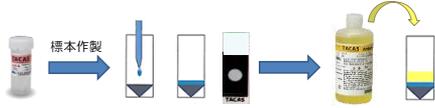
形態学的保存性



- 標本作製前の回収検体
→全固定液 **室温6ヶ月**



- TACAS™ GYN Vialから標本作製を行った場合
水に置換された状態の残検体 → **室温1~2日**
残検体+TACAS™ Amber → **室温2週間**



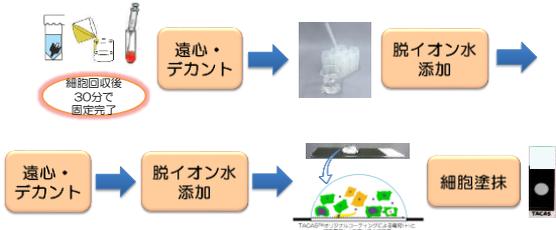
7

株式会社 医学生物学研究所

シンプルな作製工程



- 婦人科検体は1回の採取でTACAS™標本が6枚まで作製可能
- 非婦人科検体の標本作製可能枚数は採取細胞量に依存する



8

株式会社 医学生物学研究所

TACAS™標本の特徴



- 高い溶血能
- 背景成分を適度に反映
- 細胞収縮が軽度
- 鏡検時間の短縮



9

株式会社 医学生物学研究所

変性の少ないTACAS™標本 MBL



カバーガラス
浸水加工

- ◆ 細胞の圧着による変性なし
- ◆ 細胞は立体的に納まる

↓

構築が把握しやすい
+核内の構造の見易さ



10 株式会社 医学生物学研究所

口腔領域における細胞形態比較 MBL

		面積 (μm ²)		半径 (μm)		最大長 (μm)		円形度*	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
直接塗抹法	細胞質	701.4	263.2	14.8	2.6	40.3	8.8	0.7	0.0
	核	22.5	2.0	2.5	0.4	6.3	1.0	0.8	0.1
TACAS™ 法	細胞質	582.5	210.6	13.4	2.6	34.6	7.6	0.8	0.0
	核	22.3	2.4	2.5	0.5	6.3	1.5	0.9	0.1

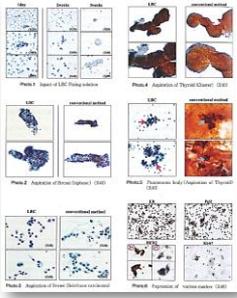
*: 物体の円形度を示し、正円は1である。

- TACAS™法は直接塗抹法よりわずかに細胞質および核の円形度が高い＝やや立体的
- 細胞質の収縮あり
- 核の大きさ、細胞質の厚みは直接塗抹法と同程度

スプリット・サンプル法の口腔領域への応用 検査と技術 第41巻 第12号より

11 株式会社 医学生物学研究所

乳腺・甲状腺領域における標本評価 MBL



- 従来法との適正率比較
 - 従来法単独よりも適正率上昇
 - 従来法における判定不可例がTACAS™法で判定可能に
- TACAS™形態的保存性
 - 2週間保存以降より変性傾向
- 従来法との細胞所見比較
 - 二相性や濾胞構造、コロイド、核内細胞質封入体保持
 - 好酸性細胞質の染色性が消失傾向
- TACAS™免疫細胞化学染色
 - 各種マーカーの染色性良好

乳腺・甲状腺標本評価試験におけるBCAの原則 北海道病理検査学会誌 第25巻より

12 株式会社 医学生物学研究所
